# 伊久間原遺跡 II

昭和53年度　伊久間原畑灌水工事
埋蔵文化財立合調査報告書

1980. 2

長野県南信土地改良事務所
長野県下伊那郡喬木村教育委員会

# 伊久間原遺跡 II

昭和53年度　伊久間原畑灌水工事
埋蔵文化財立合調査報告書

1980. 2

長野県南信土地改良事務所
長野県下伊那郡喬木村教育委員会

# 序

県営畑地帯総合土地改良事業として，今回喬木村伊久間原56haについて，農業近代化の基礎である散水施設工事が行なわれましたが，かねてよりこの地帯には住居址等埋蔵文化財の存在が確認されていましたので，文化財保護の見地から工事実施にともない，喬木村教育委員会に委託して遺跡の立合調査を行なったものであります。

今回の調査にあたっては，果樹園，桑園地帯であるため，調査は幾多の困難にもかかわらず，多くの成果が得られ，当下伊那地方における代表的な遺跡であることが確認出来ましたことは，地元の皆さんはじめ私共にとっても非常に意義深いものであります。

報告書が出版されるにあたり，改めて文化財保護，記録保存の意義をかみしめるとともに，佐藤調査団長はじめ，この調査に当られた関係各位のご努力に厚く御礼申し上げる次第であります。

昭和54年12月

南信土地改良事務所下伊那支所長

八　幡　高　吉

# 例　　言

1. 本書は昭和53年度伊久間原全面55.7 haにわたる畑灌水工事に伴う立合調査を行なった伊久間原遺跡の報告書である。

2. 本書は1978年3月刊行の「伊久間原」について刊行するため，本書名を「伊久間原遺跡Ⅱ」とした。

3. 立合調査は伊久間原55.7 haに灌水管溝が幅30cm，幹線幅70cm，深さ70cmが12m～15m間隔に掘られ，その溝内の調査によるもので，ローム層中の黒土の落ちこみと，遺物の検出によって遺構の存在を確認した。遺構位置を図3・4・5と表2に記載した。

4. 配管溝は機械による掘削であり，このため，出土土器の大半は小破片となり，また1遺構の出土量も少ない。遺物の図示は主なものにとどめた。

5. 本書の編集及び執筆は佐藤が担当した。

6. 写真は佐藤が，遺構位置図，遺物の作図は佐藤が，製図は田口が分担した。

7. 遺物は喬木村歴史民俗資料館に保管してある。

# 目　　次


序 …… 3
例　言 …… 4
目　次 …… 4
挿図目次 …… 5
Ⅰ　環　境 …… 6
　1. 自然的環境 …… 6
　2. 歴史的環境 …… 9
Ⅱ　立合調査経過 …… 11
Ⅲ　立合調査結果 …… 15
　伊久間原畑灌水工事立合調査遺構確認図（1：2,500）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ …… 12
　1. 縄文時代 …… 15
　2. 弥生時代 …… 17
　3. 古墳時代 …… 17
　4. 平安時代 …… 17
　5. 赤板古墳 …… 18
　6. そ の 他 …… 18
　伊久間原畑灌水工事立合調査遺構確認表（表2） …… 18
Ⅳ　ま と め …… 27
図版　Ⅰ 遺跡　Ⅱ 遺物　Ⅲ 調査スナップ …… 37
調査組織 …… 43
おわりに …… 44

# 挿　図　目　次

図1の1　伊久間原遺跡位置図及び周辺の遺跡Ⅰ（1：50,000）…… 7
図1の2　伊久間原遺跡位置図及び周辺の遺跡Ⅱ（1：15,000）…… 8
図2　伊久間原遺跡立合調査配置位置図（1：7,500）…… 12
図3　伊久間原畑灌水工事立合調査遺構確認図Ⅰ（1：2,500）…… 13
図4　伊久間原畑灌水工事立合調査遺構確認図Ⅱ（1：2,500）…… 14
図5　伊久間原畑灌水工事立合調査遺構確認図Ⅲ（1：2,500）…… 16
図6　伊久間原縄文早期末・前期末の遺物（1：2）…… 29
図7　伊久間原縄文中期中葉の遺物（1：4）…… 30
図8　伊久間原縄文中期後半の遺物（1：4）…… 31
図9　伊久間原縄文後・晩期の遺物（1：4）…… 32
図10　伊久間原弥生中期の遺物（1：4）…… 33
図11　伊久間原弥生中期末，後期の遺物（1：4）…… 34
図12　伊久間原古墳時代前・中期の遺物（1：4）…… 35
図13　伊久間原古墳時代後期の遺物Ⅰ（1：4）…… 35
図14　伊久間原古墳時代後期の遺物Ⅱ（1：4）…… 36
図15　伊久間原平安時代の遺物（1：4）…… 36

# Ⅰ 環　　境

## 1. 自然的環境

伊久間原遺跡は長野県下伊那郡喬木村伊久間原に所在する。

長野県飯田・下伊那地方は東に赤石山脈が連なり，西に木曽山脈が聳え，その中間を天竜川が南下してその両側に見事な段丘が発達している。天竜川の東岸一竜東地区は背後に赤石山脈の前面に中山性の伊那山脈が大西山（1741m），鬼面山（1889m），氏乗山（1818m），金森山（1702m）となって赤石山脈と並走している。伊那山脈の東面は急峻な断崖をなすが，西面は数列の断層による起伏をもちながら段丘面に達し，天竜川の西岸一竜西地区に比し山麓からのびる扇状地は狭小で段丘面の幅員も全般的には狭いが，豊丘村から喬木村にかけての段丘の発達は著しく，特に北から豊丘村の田村原，林原，伴野原，喬木村の城原，帰牛原，伊久間原，さらに飯田市下久堅の中尾，庚申原と続く伊那谷中位段丘面の幅は広く典型的な段丘地形を形成している。

遺跡の所在する伊久間原は南北1250m，東西150～300m，台地の北側のハマイバでは東西900mと東西方向にのびる北側に傾斜する台地をなしている。標高485～510mの広い段丘面をなし，西は緩い段丘崖となって一段低位の下原面となる。南北450m，東西は南側で120m，北にいくに従い狭く，三角形の台地形をなし，標高469～470m。ともに伊那谷第5段丘に位置づく。

北は高距70m余の急峻な浸蝕崖となり，崖下を小川川が西流し天竜川に注いでいる。西は伊久間原面で95m，下原面で75mの高距をもつ段丘崖となり，その崖下に伊久間部落が南北に細長く展開し，3～4mの比高差をもって天竜川氾濫原の水田地帯となり，伊久間原面と天竜川との高距は100m前後である。天竜川の氾濫低地をのぞみ，同位段丘面にある飯田市街地と相対している。南は境沢の深い浸蝕谷によって切られ，沢を距てて飯田市下久堅の中尾，庚申原と続くが，それ以南は小河川の浸蝕により段丘面は狭小となる。東は約60mの高距をもつ高位段丘の大原台地，さらに高位の伊那谷第1段丘の机山（610m）の残丘があって，その背後は九十九谷と呼ばれる深い浸蝕崖となっている。さらに伊那層よりなる丘陵が東にたかまって続き，この丘陵の東側に断層縦谷により形成された集落，富田，飯田市上久堅があり，その背後に伊那山脈の鬼面山，氏乗山，金森山が聳えている。

伊久間原の微地形をみると，平坦な台地であるが，大原段丘崖下には崖錐堆積の緩傾斜があり，そこは果樹園地帯となっており，この崖錐堆積の端部と，伊久間原面は東にゆるく傾斜しており，その交わる線は湧水地帯となし，南に向う小流域をなして境沢に合流している。境沢の谷頭浸蝕は南から北へと進み，深い谷を形成し，現在大原段丘面に上る南側道路のすぐ南にまで浸蝕はせまってきているが，人工的処置によって浸蝕を食い止めている一方，人工の加わらない面の観察によれば，下部はミソベタの堅い層，その上に礫層がのり，その上は堅い三紀ずりをした粘土層があって，この堅い層が浸蝕を食い止めているとみられる。粘土層の上には砂層がのっており古い時期の流路ともみられる。1977年度調査の伊久間原Ⅰ調査区のローム層は粘土を含み極めて堅く，おそらく粘土の堆積の流れとローム層の堆積が同時期に行われたものと推測される。このため縄文期遺構覆土は堅く，調査には苦労した。

伊久間原遺跡は，谷頭浸蝕の終わる地点を中心にした台地の西側に，さらに下原面の北側から西端部に続いて集落が展開されたものと考えられる。伊久間原には蓋立，堀垣外，ホウゲン，鮫林，城ノ上，伊久間ハマイバ，下原等と遺跡は区分されているが，下原遺跡は一段低い段丘面にあって区別されるが，いず

図1の1 伊久間原遺跡位置図及び周辺の遺跡I

(1：50,000)

1. 伊久間原遺跡　2. 馬場平遺跡　3. 煙牛原遺跡
4. 阿島遺跡　5. 城原遺跡　6. 仲野原遺跡
7. 林原遺跡　8. 林里遺跡　9. 田村原遺跡
10. 北原遺跡　11. 恒川遺跡　12. 寺所遺跡
13. 松尾南ノ原遺跡　14. 清水遺跡　15. 大原遺跡

図1の2　伊久間原遺跡位置図及び周辺の遺跡Ⅱ（1：15,000）

れも連続する遺跡であり，これを小字別に分けて遺跡を考えることのできない立地条件にあり，また，これをどこに境界を引くこともむずかしく，伊久間原遺跡群として総称するが妥当と思われる。

## 2. 歴史的環境

伊久間原遺跡は昭和27年，29年度農道開発事業の際，縄文中期末住居址3，古墳時代後期住居址10が発見調査された。[1] 昭和52年度畑散水施設工事に先立つ発掘調査では，伊久間原面では1450㎡の調査で住居址16（縄文早期末2，中期中葉末3，中期後半7，晩期1，弥生後期3）円形周溝墓2，土壙13が，下原面では1250㎡の調査が行われ，耕作により遺構の多くは荒らされ，不十分な調査に終っているが，住居址10（縄文中期中葉末1，中期後葉1，後期3，弥生後期3，中世1），柱列址1，方形周溝墓1，土壙4が発掘調査されている。また，弥生中期土器片の多くと，旧石器とみられる石器をはじめ，各期の土器片，多くの石鏃が表採されており，下伊那地方での主要遺跡として知られている。崖端部には伊久間水防土塁が残っており，伊久間城跡もあったが，その跡を残していない。大原段丘崖下には赤坂古墳が残存している。

伊久間原周辺の遺跡を概観すると，同位段丘面では北にある帰牛原面の城本屋遺跡[3]では昭和51年度農業構造改善事業に伴う調査で縄文中期末住居址45，弥生時代(3)，平安時代(1)の住居址4が発見され，1970年の農道用地調査[4]で，中原では方形周溝墓2基，十万山西裾で縄文中期（勝坂式）住居址2，弥生後期住居址1と弥生中期（阿島式）土壙1を発掘し，南原では1972年酒木第一小学校建設用地調査[5]で方形周溝墓5基が発見されている。また，昭和52年度十万山西裾の農業構造改善事業に伴う調査[6]では縄文中期勝坂式末期と弥生後期の集落が発見され，弥生後期の銅鏃1をはじめ良好な資料を得ており，帰牛原段丘面の広範な地域に縄文中期・弥生・平安時代にわたる集落が展開されていたものと推定されている。

帰牛原の北には城原遺跡があり，瓦土採集時に弥生後期の良好な資料を得ている。さらに北に続く豊丘村伴野原，林原，田村原遺跡[7]は各期にわたる遺構，遺物が数次の調査で発見され，特に伴野原では1976年度の発掘調査で約90の住居址が発掘され，縄文前・中，弥生後期，平安時代にわたって調査され，縄文中期末の環状集落の存在が確かめられ，また，パン状炭化物の出土で注目を浴びている。

伊久間原の南には，飯田市大中尾，中尾，天神と続く遺跡が並び，これらは未調査であるが縄文・弥生時代の遺物の散布がみられている。上位段丘の大原遺跡は昭和53年度調査[8]により，縄文早期かとみる住居址1，中期中葉末住居址8，集石炉2，焼土帯1，集石1，土壙5が発掘調査され，有舌ポイント1この出土をみた。また富田窯址の調査では燃焼室が検出されたが，焼成室はかつて開墾時に破壊されていた。江戸時代中期とみる陶片が燃焼室に敷かれ，窯出土の陶器は木灰釉を施すもので，雑器を主体とした江戸時代後期の窯址と確認された。[9] 大原段丘北端部には奴山古墳群が残存している。

伊久間段丘崖下にある伊久間集落面では平安期の土師器の出土をみており，小川川に沿った低位段丘面には両平・田本平遺跡があり，縄文中期・弥生後期の遺物が発見されており，伊久間原北東段丘崖下にある堂ノ前では石剣の頭部が発見されており，家ノ下・平畑では弥生後期の遺物が表採されている。喬木中学校のある馬場平遺跡では，学校建設時に縄文前期末から古墳時代に至る各期の好資料が発見され，主要な遺跡の1つである。天竜川に面す低位段丘面では小川川の北，加々須川以南下度地域は里原から加々須川に至る沖積段丘面は未調査であるが，古い時期の土師器の坩，須恵器の高坏の出土をみており注目すべき遺跡である。一段上位にある現喬木公民館，保育園のある旧喬木第一小学校跡地では，縄文中期末・後期・弥生中期（寺所式・阿島式）の住居址，土壙の存在も確認され，この西端部にある郭1号墳[10]は竜東地区唯一の前方後円墳であり，帰牛原段丘崖中腹にある郭5号墳は完型の朝顔花形円筒埴輪の出土で知られ

ている。

加々須川の北にある阿島遺跡[11]は弥生中期阿島式土器の標準遺跡である。それより北に続く豊丘村小園，伴野の沖積段丘面は未調査であるが注目すべき遺跡とみられ，虻川の北にある林里遺跡は弥生前期林里式土器の標準遺跡である。その天竜川の西岸に弥生中期北原式土器の標準遺跡北原遺跡があり，その南には飯田市座光寺恒川遺跡は弥生中期末恒川式土器の標準遺跡であり，現在進行中の国153号座光寺バイパス路線調査では，和銅開称（銀銭）の出土もみ，伊那郡衙址の推定もされ重要遺跡として注目を浴びている。飯田松川の南には弥生中期初頭の寺所式土器の標準遺跡寺所遺跡があり，その南の天竜川に沿う低位面に前期土師器の多量の出土をみた清水遺跡がある。

喬木村の富田地区を除く古墳は37基，そのうち16基は低位段丘面，郭，里原，馬場平付近にあり，その他は中位，上位段丘上，段丘崖腹にある。現存する古墳は少なく，郭１号墳は前方部を欠き，小川塚穴古墳は封土は崩され石室を露出しており，里原１号墳，杉立古墳は墳丘を僅かに残す状態である。大原段丘端にある奴山古墳群は６基の古墳があったが１・３・４号墳が残存しており，古墳群の形態を残すものとして注目される。消滅古墳をふくめこれら古墳より形象埴輪，円筒埴輪，鉄，玉類，刀剣，金銅装馬具類の出土をみたものもあり，竜東地区の古墳文化の中心地であっただろうとも推測される。

富田地区の遺跡は表面採集によるが，小平・下屋・地神・市場等の縄文・弥生・古墳時代にかけての遺物が発見されており，古墳は８基[12]が数えられているが，市場古墳がその墳丘を残している。

注 (1)　大沢和夫・今村善興「長野県下伊那郡喬木村伊久間原住居址」信濃４，12

(2)　喬木村教委　「伊久間原」　1978

(3)　喬木村教委　「帰牛原城本屋」　1977

(4)　〃　「帰牛原」　1971

(5)　〃　「帰牛原南原遺跡」1973

(6)　〃　「帰牛原遺跡十万山地区」1979

(7)　豊丘村教委　「伴野原遺跡」　近刊

(8)　〃　「田村原・林原遺跡」 1975

(9)　飯田市教委　「大原遺跡・富田窯址」1979

(10)　市村咸人　「下伊那史三巻」

(11)　宮沢恒之・佐藤「喬木村阿島遺跡」1967　長野県考古学会誌第４号

(12)　注(10)と同じ

# Ⅱ 立 合 調 査 経 過

昭和53年度畑地帯総合土地改良事業伊久間工区事業は 55.7haの伊久間原全面の畑地帯に灌水工事が行われることになり，それに先立ち昭和52年度には調査可能地域2,700㎡について，発掘調査を実施し，前記の遺構を発掘し，多くの各期にわたる資料を得，その報告書「伊久間原ー（1978)」を発行している。

畑灌水工事は 55.7haの全面積にわたって果樹園は 12m，桑園・野菜畑は15mの間隔に配管が施され，道路に沿って幹線が入る設計になっている。配管の幅30cm，幹線の幅70cm余，深さ70cm以上の溝が掘られこのため遺構の一部が破壊されるわけである。

本次調査は工事進行に伴い遺構の確認をなすが目的の立合調査である。長野県南信土地改良事務所の委託により，喬木村教育委員会が受託し，遺構確認調査が実施された。

昭和53年10月４日，立合調査について南信土地改良事務所・喬木村教委・４請負業者と調査担当者による打合せ会を現地で行ない，配管後の埋立は調査終了後にする。調査は工事に支障をきたさないことを了承しあう。

立入調査は10月９日より54年２月21日まで行われたが，２月８日以後工事の進行上Ｃ11区の一部が残り21日になって現場調査を終了した。調査は巾30cmの深さ70cm以上の溝の中で行われ，体がやっと入る状態，この中の調査は，遺構確認・住居址の切合い関係，遺物の検出は困難なものであり，冬になって上溶により，着物は毎日泥だらけになる仕末であった。

請負業者はⅠ工区日本水道・Ⅱ工区吉川建設，Ⅲ工区中部設備工業，Ⅳ工区平和工業の４業者であり，ともに調査には協力的であり，調査は順調に進んだが，１下請業者の了承事項無視によりＣ16区域の調査は不完全に終ったことは残念であった。

現場調査終了後，図の整理，遺物の整理，復原，概報を昭和53年度に作成し，昭和54年度に本報告書を発行することになったものである。

図2　伊久間原遺跡立合調査配置位置図（1：7,500）（図3・4・5，表2参照）

図3　伊久間原畑灌水工事立合調査遺構確認図Ⅰ（1：2,500）

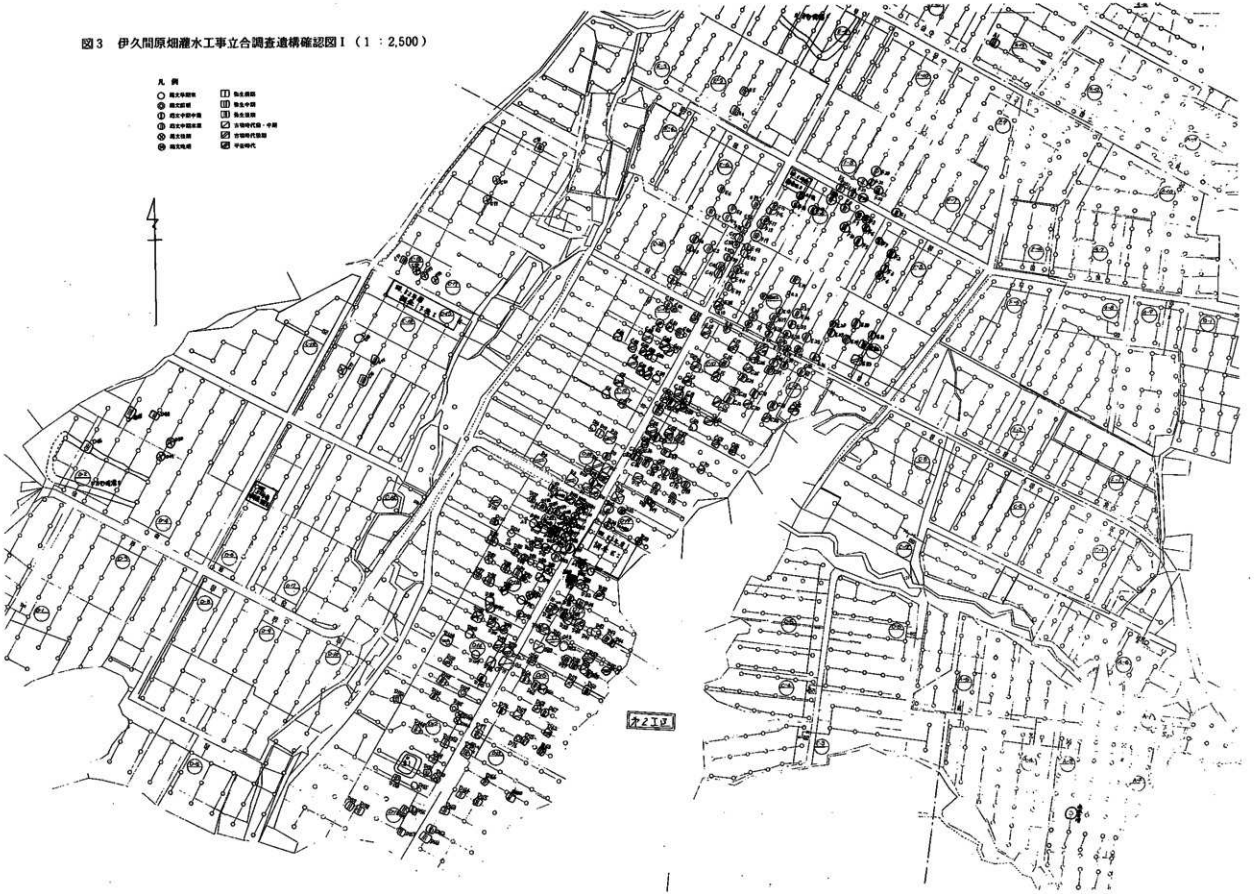
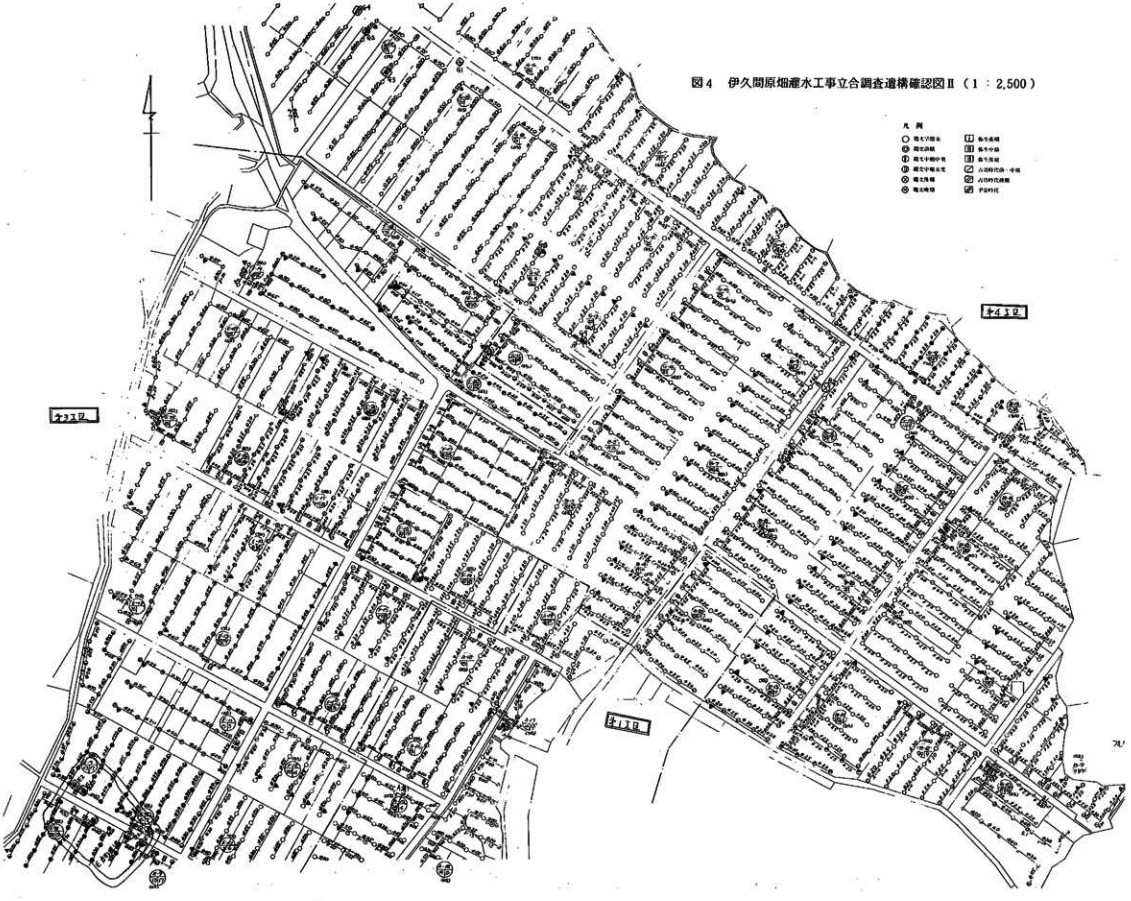


図4　伊久間原畑灌水工事立合調査遺構確認図Ⅱ（1：2,500）



# Ⅲ 立 合 調 査 結 果

配管工事により発見された住居址は344であるが，D２号住居址は27年度調査の６号住居址，D24号住居址は52年度調査の22号住居址であり，計342の住居址を検出している。方形周溝墓１，土壙12，溝３を調査し，その配管区域の遺構の時代別計は表１のようであり，各遺構については表２の一覧表にまとめた。遺構分布については図Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにみるようである。

**配管区域時代別遺構検出一覧表（表１）**

| 配管区域 | 住居址 | 縄文時代 | | | | | 弥生時代 | | | 古墳時代 | | 平安時代 | 土坑 | | | 溝 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 早末 | 前 | 中中葉 | 中後半 | 後・晩 | 前 | 中 | 後 | 前・中 | 後 | | 縄 | 弥 | 不明 | 方形周溝墓 | 中世 |
| A | 1 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | 1 |
| B | 5 | | | | | 5 | ? | | | | | | | | 1 | | |
| G | 9 | | | | | 5 | | | 4 | | | | | | | | |
| E | 44 | | | 3 | 29 | | | | 10 | | 2 | | 4 | 1 | | | 1 |
| F | 26 | | | 9 | 17 | | | | | | | | | | | | |
| C | 93 | 3 | | 11 | 12 | 8 | | | 19 | | 37 | 3 | 3 | | | | |
| D | 166 | 18 | 2 | 4 | (−1) 20 | 22 | | 24 | 34 | 11 | (−1) 30 | 1 | 1 | 2 | 3 | 1 | 1 |
| 計 | (−2) 344 | 21 | 2 | 27 | (−1) 78 | 40 | ? | 24 | 68 | 11 | (−1) 69 | 4 | 8 | 3 | 4 | 1 | 3 |

## 1. 縄 文 時 代

早期末住居址は21が検出されている。出土遺物で図示したものは図６の１～８のみであるが，土器の小片と黒曜石・チャート片は数多くみられている。土器は木島Ⅰ式に比定される所謂「細線文指圧痕土器」が主体となり，１の無文のやや厚手の土器と８の茅山式を伴い，石器には６の石鏃，７の石匕が検出され。昭和52年度発掘調査の19号・22号住居址出土遺物と同時期のものとみられる。（「伊久間原」－1978参照）

前期の住居址２が検出され，出土遺物（図６～９・10）も少ない。諸磯Ｂ式に比定されるものである。

中期になると大集落が形成され，立合調査検出の住居址105，それ以前調査で発掘した15を合せると120となる。しかし中期中葉住居址は計30，後半90と後半期に発展の大きかったことは下伊那地方の段丘面にみられる一般的様相である。中期中葉の遺物（図７）は多くみられたが，図示は主なもののみにした。Ｃ18号・Ｃ21号住居址出土の６～９，12～16（16は土偶尻部）にみる勝坂式の盛行期にみる豪華な文様をもつ１群と，Ｆ24号住居址出土１の粘土紐の貼布による文様構成をもつ土器と，２・３の井戸尻Ⅲ式に比定される土器の伴出をみる中葉期から後半期への移行を示す１群の土器がみられる。後者には昭和52年度発掘調査の20号・23号・28号住居址出土遺物にその類例をみる。（「伊久間原」－1978参照）

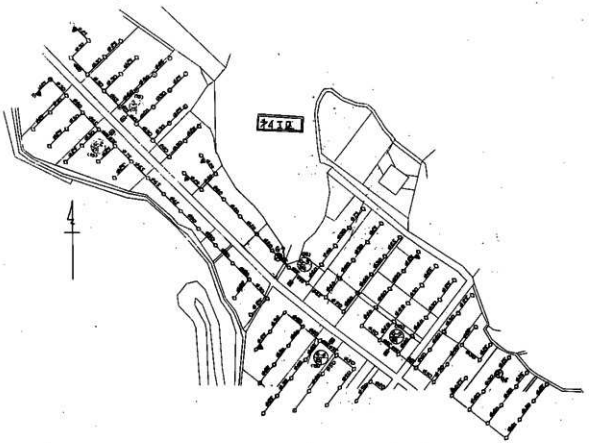



図5　伊久間原畑灌水工事立合調査遺構確認図Ⅲ（1：2,500）

中期後半では遺構・遺物量は多いがトレンチャーによる溝掘りのため，土器の大半は小破片となり，図示（図8）したものは1部分にすぎない。Ⅱ期からⅣ期にわたる各期がみられ，1住居址の出土量が少なく，明確にはいいがたいが，1～11はⅡ期に，12～23はⅢ・Ⅳ期，中でも20はⅣ期とみられる中期最終末のものである。

後期・晩期の住居址は40を数えるが，遺物（図9）は少なく，無文の粗製土器が大半を占めている。後期では1～6の加曽利B式に比定される土器，8～11の粗製土器があり，晩期前半の12～14の縦の条線文の鉢形土器があり，昭和52年度発掘調査の21号住居址，土壙1・3号出土土器にその類例がみられる。（「伊久間原」－1978参照）晩期後半のB5号住居址出土の15・16は横位の条痕文をもつ大形深鉢は，地表下10cmに2個体が重なっての出土で，甕棺ともみられ注目すべきものである。

## 2. 弥生時代

弥生時代の住居址は今次調査で92，前次調査の6を加えると98が発見されており，中期24・後期74となり，大集落が展開されたものとみる。B5号住居址出土の大形深鉢は前期林里式とも考えられるが，縄文晩期樫王式に比定されるものとみたい。

中期では図示したものは図10・図11の1・2であるが，その出土量は多い。中期前半には阿島式のD148号住居址出土の図10の1・2の鉢形土器と3の土製紡錘車がある。昭和27・29年度農道開設時調査では遺構発見には至らなかったが阿島式土器片の多くが採集されている。(徳木歴史民俗資料館所蔵)

中期の大半は後半期の北原式・恒川式であり，D162号住居址出土の図10の5・6の壺形土器は完形で同一器形をなすが文様構成に差をみるものである。D160号住居址出土には壺形（図10の7）と鉢形（図10の8・9）の好資料がある。D63号よりは図11の1の大形壺の出土があり，恒川式とみるものである。石器には図11の2はD166号住居址出土の磨石斧で凝灰岩製であり，図11の3のD163号住居址出土の石鏃がある。

後期の住居址の分布は伊久間原全面に広がり，方形周溝墓とみる溝がD11・D12に発見されている。しかし遺構は激増するに反し遺物は少なくなる。これは下伊那地方のこの期の一般的にみる傾向である。図示したものは主なもので図11の4～13である。4～7の壺形，9・10の甕形，8の高坏形があり，後期後半の中島式であり，7～9は中島式の後半のものである。石器には11の石鏃，12の有肩扁状形石器，13の打製石包丁がある。

## 3. 古墳時代

古墳時代前・中期の集落は小さく，住居址11が発見され，遺物も少ない。遺物（図12）には土師器の3の壺，1・2・5の甕，4・6の高坏があり，D56号住居址では打製石包丁の伴出をみている。

後期になると集落の規模は拡大され検出住居址数は計78となり，出土遺物の量も多くなり，土師器を主体に須恵器の伴出をみる。図示したのは主な遺物（図13・14）で，土師器には大型甕（図13の1・3・4）小形甕（図13の2），高坏（図14の1），椀（図14の2・3），甑(図14の4・5)，図13の大型鉢がある。石製模造品に図14の剣形がD111号住居址より出土している。両面に鎬をもたぬ扁平の1孔のものである。

## 4. 平安時代・中世

平安時代の住居址は4と少なくなり，遺物（図15）も少なく，1～4のD62号住居址出土の国分式の土師器の甕と須恵器片，C2号住居址出土の5の灰釉陶器の段皿が主なもので，平安時代後半のものである。

中世では伊久間城跡のあった城ノ上地籍で55m×70mの方形の範囲に幅3～4m，深さ1m以上の溝をめぐらすを，下原では25m×65mの長方形の範囲に幅2.5～4m，深さ1m以上の溝をめぐらすが発見され，中世城跡に関連する館址の存在が予想され，またA地区には溝の1部分が発見されているが十分な把握にはいたらなかった。

## 5. 赤坂古墳

大原段丘崖下の崖錐堆積地帯のＡ３に所在する。残存する墳丘は東西径９ｍ，南北径 8.5 ｍ，西側での高さ 1.3 ｍの円墳である。墳頂にはリンゴが植えられ，開墾時から後の耕作によって墳丘は大きく崩されているとみられるが，円墳の整った形態を残している。

配管計画は墳頂を南北に切るようになっていたが，配管は墳頂を避け，西側を迂回することにし，工事中の立合調査することにした。この調査により墳丘の北に幅２ｍ，深さ１ｍ余の周溝の存在と，南々西の墳丘の裾部に幅２ｍにわたって人頭大の石による敷石がみられ，羨道または羨部門とみられた。横穴石室があって破壊されたものと認められた。墳頂に大きな割石が１こ残されている。敷石部より須恵器片数点が検出されており，古墳後期後半に位置づくものである。

## 6. そ の 他

土坑15が発見され，縄文時代とみるもの８，弥生時代が３，時期不明４があり　土壙とはっきりいえるものはない。遺構は検出できなかったがＡ20では打石斧があり，Ｄ６では縄文後・晩期の土器片の散布がみられたが，未調査のまま配管が埋められ，遺構の検出不能となったが，その期の住居址の存在が予想された。

### 伊久間原畑海水工事立合調査遺構確認表（表２）

（例　Ａ１住…Ａ１号住居址，A13…A13配管区，Ｓ２Ｗ１，Ｅ2.3～7.5ｍ　南より２通目，西１通目の配管より東 2.3～7.5 ｍに住居址の掘りこみ，深さ55cm，弥・後…弥生後期）（Ｂ土１…Ｂ土坑１号）

| 遺構番号 | 配管区番号 | 遺構所在位置 | 深さ cm | 時期 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| Ａ１住 | A13 | Ｓ２Ｗ１，Ｅ2.3～7.5ｍ | 55 | 弥．後 | |
| | A20 | Ｓ３Ｗ１，Ｎ7.2ｍ | 85 | | 打石斧１，遺構なし |
| Ａ溝１ | A15 | Ｎ２Ｗ４，Ｗ2.5～5.6ｍ<br>Ｎ１Ｗ３，Ｅ1.7～5ｍ | 65<br>70 | 中世？ | |
| Ｂ１住 | B10 | Ｎ１Ｗ５，Ｗ2.8～5.7ｍ | 35 | 縄．晩？ | 遺物なし |
| Ｂ２住 | B5<br>B6 の間 | 幹線Ｎ４Ｎ2.5～7.5ｍ | 65 | 縄．後？ | 遺物なし，石囲炉を残す |
| Ｂ３住 | Ｂ８ | Ｓ３Ｗ３，Ｗ1.3～6.3ｍ | 60 | 〃 | 打石斧，横刃石，石囲炉 |
| Ｂ４住 | Ｂ６ | Ｓ２Ｗ１，Ｗ0.6～4.5ｍ<br>Ｎ3.3～Ｓ1.7ｍ | 35 | 〃 | |
| Ｂ５住 | B10 | Ｎ１，Ｗ１，Ｓ２～7ｍ | 20 | 縄．晩 | 条痕文，カメ２個体重なる。カメ棺？ |
| Ｂ土１ | B10 | Ｎ3Ｗ4，Ｗ2～3.6ｍ | 90 | 〃 | 遺物なし |

| 遺構番号 | 配管区番号 | 遺構所在位置 | 深さ cm | 時期 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | |
| G 1 住 | G19 G20 N | 幹線G19E1，E3.2～7.5m | 75 | 縄．後？ | 小片のみ |
| G 2 住 | G 19 | W1S2，N4～9m | 70 | 弥．後？ | 遺物なし |
| G 3 住 | G | W2S3，N4～9m | 70 | 〃 | 〃 |
| G 4 住 | G 4 | N1E2，S1.9～5.3m | 75 | 〃 | 石鏃2 |
| G 5 住 | G 6 | W2S3，N1～S3.7m | 70 | 縄．後 | 打石斧1 |
| G 6 住 | G 6 | W2S1，N3.9～6.7m | 45 | 〃 | 横刃1 |
| G 7 住 | G 3 | E5N1，E2.0～8.5m | 60 | 〃 | 遺物なし |
| G 8 住 | G 12 | W3N1，S3.7～8.1m | 60 | 弥．後？ | 〃 |
| G 9 住 | G 13 | E3S1，W0.8～4.3m | 40 | 縄．後？ | 〃 |
| E 1 住 | E 7 | E2S1，E1.5～W4m | 60 | 弥．後 | |
| E 2 住 | E 7 | E3S1，E1～6m | 65 | 〃 | |
| E 3 住 | E 8 | E2N1，S2～7m | 65 | 〃 | 炉，北側に高坏坏部に磨消縄文がつく |
| E 4 住 | E 5 | E2S1，N1～6m | 50 | 〃 | 有肩扁伏形石器，石鏃片 |
| E 5 住 | E 5 | E2S3，S0.5～5m | 〃 | 〃 | 〃 |
| E 6 住 | E 6 | E3S2，N4.5～9.5m | 55 | 縄．中（後Ⅱ） | 縄・中（後Ⅱ）縄文中期後半Ⅱ期 |
| E 7 住 | 〃 | E3S1，N0.5～5m | 〃 | 〃 | |
| E 8 住 | 〃 | E2S2，N1.5～S4m | 〃 | 〃 | |
| E 9 住 | 〃 | E2S1，N3～8m | 60 | 〃 | |
| E 10 住 | E 2 | W1S1，S0～5m | 80 | 古墳（後期） | |
| E 11 住 | 〃 | W3S1，E1.5～W4m | 62 | 縄.中（後Ⅱ） | |
| E 12 住 | 〃 | W4S1，W1～E4m | 50 | 〃 | |
| E 13 住 | 〃 | W5S1，W0～5m | 55 | 〃 | |
| E 14 住 | 〃 | W5·6，L，S6～10m | 65 | 〃 | |
| E 15 住 | 〃 | W6S1，W0～4m | 70 | 〃 | |
| E 16 住 | 〃 | W4S1，N2.5～7m | 80 | 〃 | |
| E 17 住 | 〃 | W4S2，S0～5.5m | 70 | 〃 | |
| E 18 住 | 〃 | W4S2，N0～5m | 45 | 〃 ？ | 17住切られる |
| E 19 住 | 〃 | W4S4，S0.6～4.7m | 73 | 弥．後 | |
| E 20 住 | 〃 | W3N2，N4.5～9m | 83 | 縄．中（後Ⅳ） | |
| E 21 住 | 〃 | W3S1，N3～8.5m | 80 | 〃 （勝末） | （勝末）……勝坂式末 |
| E 22 住 | 〃 | W5S1，N3～8m | 70 | 〃（後Ⅱ～Ⅲ） | |
| E 23 住 | 〃 | W5S2，N1.2～S3.4m | 80 | 〃 （後Ⅲ） | |
| E 24 住 | E 1 | W1S2，N2.5～7.5m | 110 | 縄．中（後Ⅲ） | |
| E 25 住 | E 2 | W6N2，S1～6m | 118 | 〃（後Ⅲ～Ⅳ） | |
| E 26 住 | E 1 | W1S1，N2～S2.5m | 70 | 弥．後 | |
| E 27 住 | 〃 | W1S2，N3.5～6.5m | 60 | 縄．中（後Ⅲ） | 石皿 |
| E 28 住 | 〃 | W1S3，S2～4.5m | 70 | 〃（後Ⅳ？） | |
| E 29 住 | 〃 | W2S2，N2.8～8.2m | 70 | 〃 （後Ⅱ） | 土偶頭 |
| E 30 住 | 〃 | W2S3，N1～7m | 70 | 〃 （後Ⅲ） | |
| E 31 住 | 〃 | W3S3，N0.4～5.7m | 70 | 〃 〃 | |
| E 32 住 | 〃 | W3S3，S2.5～8m | 75 | 弥．後 | |
| E 33 住 | 〃 | W3S2，S0.4～6.5m | 90 | 古墳（後期） | 火事 |

| 遺構番号 | 配管区番号 | 遺構所在位置 | 深さ cm | 時期 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| E 34 住 | E 6 | E1N3, S1.5～7.5m | 60 | 縄. 中（後Ⅱ） | |
| E 35 住 | 〃 | E1N4, S2.2～6.2m | 80 | 〃 〃 | |
| E 36 住 | 〃 | E1N4, S6.2～9.2m | 70 | 〃 〃 | E 35 住に切られる |
| E 37 住 | E 9 | E3N1, E2.5～W2m | 55 | 弥. 後 | |
| E 38 住 | E 2 | W1S1, N2.4～5.4m | 45 | 縄. 中（後Ⅱ） | E10住に切られる |
| E 39 住 | 〃 | W1S2, N3.7～7.8m | 70 | 〃 〃 | |
| E 40 住 | 〃 | W1S3, N0.9～4.4m | 70 | 〃 （勝） | |
| E 41 住 | 〃 | W1S3, N4.5～8m | 80 | 〃 （後Ⅱ） | |
| E 42 住 | 〃 | W1S5, S0.4～3m | 80 | 〃 〃 | E43住に切られる |
| E 43 住 | 〃 | W1S5, S0.4～? | 65 | 縄. 中（後Ⅲ） | |
| E 44 住 | E 9 | E4N1, W0.2～E4.5m | 55 | 弥. 後? | |
| 土 1 | E 2 F 9 ）中間 | E2W6S4, N5.5～7m | 70 | 縄. 中 | 石鏃 1 |
| 土 2 | E 2 | W4S3, N1.5～3m | 56 | 〃 ? | |
| 土 3 | E 2 | W5N3, S1.4～2.9m | 50 | 縄. 中（後Ⅳ） | |
| 土 4 | E 1 | W1S2, S2.8～4.2m | 50 | 〃 ? | 遺物なし |
| 土 5 | E 9 | E3N1, W5～7m | 90 | 弥. 後 | 石鏃 |
| E方形周溝 | E 7, E 10 E 8, E 9 | E8-E4.N2S8m～E9-E2～N4 E7-E3.S3～E10-E2S1 | 50～100 | 中世 | 城ノ上の地蔵 伊久間暇城跡との関連 |
| F 1 住 | F 7 | E6S1, E4.6～? | 55 | 縄. 中（後Ⅱ） | |
| F 2 住 | F 3 | E5N2, S3.2～7.4m | 70 | 〃 （後Ⅲ） | |
| F 3 住 | 〃 | E5N3, S1～5m | 45 | 〃 （後Ⅱ） | |
| F 4 住 | 〃 | E5N4, N2～6.5m | 45 | 〃 （後Ⅲ） | |
| F 5 住 | F 4 | E1N3, N1.7～7m | 70 | 〃 （後Ⅱ） | |
| F 6 住 | 〃 | E1N1, S7.5～11m | 50 | 〃 （後Ⅲ） | |
| F 7 住 | F 3 | E6N2, S2.2～N1.5m | 45 | 〃 （勝） | |
| F 8 住 | F 4 | E1N1, L, W0.5～5m | 60 | 〃 （後Ⅱ） | |
| F 9 住 | 〃 | E1N1, W5～10m | 65 | 〃 〃 | |
| F 10 住 | 〃 | E2N2, S1.5～8.8m | 90 | 〃 （後Ⅲ～Ⅳ） | |
| F 11 住 | 〃 | N1E2, L, W4～10m | 70 | 〃 （後Ⅱ） | |
| F 12 住 | 〃 | E3N1, L, W1～7m | 100 | 〃 （後Ⅲ） | |
| F 13 住 | 〃 | E4N2, S1.9～7.9m | 90 | 〃 〃 | |
| F 14 住 | 〃 | E5N2, S4.5～8m | 78 | 〃 〃 | |
| F 15 住 | 〃 | E6N3, S0.5～5.7m | 70 | 〃 （後Ⅱ） | |
| F 16 住 | 〃 | E6N3, S5.7～9m | 58 | 縄. 中（勝） | F15住に北を切られる |
| F 17 住 | 〃 | E6N4, N1.6～S2.4m | 80 | 〃 〃 | |
| F 18 住 | 〃 | E6N4, S2.8～5.1m | 60 | 〃 〃 | F17住に切られる |
| F 19 住 | 〃 | E6N5, N3～S? | 85 | 〃 （後Ⅱ） | |
| F 20 住 | F 8 | W5S2, N1.5～S3.5m | 55 | 〃 （勝末） | |
| F 21 住 | 〃 | W5S1, N1.5～6m | 62 | 〃 （?） | 遺物少し |
| F 22 住 | 〃 | W5S1, W2～8m | 55 | 〃 （勝末） | |
| F 23 住 | 〃 | W5S1, E4～9.5m | 76 | 〃 （後Ⅱ） | |
| F 24 住 | F 4 F 8 ）中間の道 | F8のE1N1.W6.5～13.7m | 60 | 〃 （勝末） | |
| F 25 住 | 〃 | F4N1W3, N5～W6m | 45 | 〃 ? | 遺物少し |
| F 26 住 | 〃 | F4N1W3, E2～6.7m | 65 | 〃 （後Ⅱ） | |

| 遺構番号 | 配置区番号 | 遺構所在位置 | 深さ cm | 時期 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| C 1 住 | C 20 | E 3 S 1, N 1～6 m | 70 | 弥. 後? | |
| C 2 住 | 〃 | E 3 S 2, S 0～5 m | 90 | 平安 | 灰釉陶器 |
| C 3 住 | 〃 | E 3 N 2, N 0.4～4 m | 90 | 縄. 中（勝末） | |
| C 4 住 | 〃 | E 3 N 2, N 6～10.2 m | 90 | 〃 （後Ⅱ） | 石囲炉 |
| C 5 住 | 〃 | E 2 N 1, S 3～8.2 m | 70 | 〃 （勝末） | |
| C 6 住 | C 12 | S 1 E 3, E 1～W 3.7 m | 70 | 縄. 早末 | |
| C 7 住 | 〃 | S 1 E 2, E 0.3～W 5.4 m | 85 | 古墳. 後 | |
| C 8 住 | 〃 | S 3 E 3, E 5.5～W 2 m | 65 | 〃 | |
| C 9 住 | 〃 | E 1 N 1, W 4.8～10 m | 90 | 〃 | 須恵器 |
| C 10 住 | 〃 | S 3 E 2, E 3～W 2.5 m | 53 | 〃 | |
| C 11 住 | 〃 | S 3 E 2, W 4～9.7 m | 50 | 〃 | |
| C 12 住 | C 10 | W 2 S 1, W 0～6 m | 85 | 〃 | |
| C 13 住 | 〃 | W 2 S 2, W 0～5.7 m | 80 | 〃 | |
| C 14 住 | 〃 | W 2 S 3, S 2～N 2.9 m | 55 | 〃 | 須恵器 |
| C 15 住 | 〃 | W 3 S 3, W 2.7～E 4.3 m | 80 | 〃 | |
| C 16 住 | 〃 | W 3 S 4, E 1.5～6.9 m | 65 | 縄. 中（後Ⅲ） | |
| C 17 住 | 〃 | W 3 S 5, W 2～E 4 m | 55 | 古墳. 後 | |
| C 18 住 | 〃 | W 1 S 5, W 0～E 4.2 m | 55 | 〃 | |
| C 19 住 | 〃 | W 2 S 1, W 0.5～E 3.9 m | 75 | 弥生 | |
| C 20 住 | 〃 | W 4 S 2, S 0～S～? | 70 | 古墳. 後 | |
| C 21 住 | 〃 | W 2 S 6, E 0.5～3.6 m | 45 | 縄. 中（勝） | |
| C 22 住 | C 9 | W 1 N 5, N 2.5～7 m | 80 | 弥. 後 | |
| C 23 住 | 〃 | W 1 N 4, N 0.5～S 4 m | 80 | 〃 | |
| C 24 住 | 〃 | W 1 N 3, S 4.5～N 0.5 m | 60 | 〃 | |
| C 25 住 | 〃 | W 1 N 3, N 2.5～6.9 m | 70 | 古墳. 後 | |
| C 26 住 | 〃 | W 1 N 3, S 1.3～N 3.7 m | 65 | 〃 | |
| C 27 住 | 〃 | W 1 N 1, N 0.5～S 4.5 m | 80 | 〃 | |
| C 28 住 | 〃 | W 2 N 1, S 3～9 m | 60 | 縄. 中（勝） | |
| C 29 住 | 〃 | W 2 N 2, N 2～S 2.5 m | 76 | 弥. 後 | |
| C 30 住 | 〃 | W 2 N 4, N 2.7～S 6.7 m | 55 | 古墳. 後 | 須恵器 |
| C 31 住 | 〃 | W 2 N 4, N 1.5～5.5 m | 40 | 弥. 後 | |
| C 32 住 | 〃 | W 3 N 4, N 2.5～8.5 m | 55 | 古墳. 後 | |
| C 33 住 | 〃 | W 3 N 4, S 0.5～4.2 m | 44 | 縄. 中 | |
| C 34 住 | 〃 | N 1 W 2, 北間 E 3～8.5 m | 45 | 〃 （後Ⅱ） | |
| C 35 住 | 〃 | W 3 N 1, 間, E 4～7.8 m | 50 | 〃 後半 | |
| C 36 住 | 〃 | W 4 N 3, S 3～7.8 m | 50 | 古墳 | |
| C 37 住 | C 20 | N 1 E 1, N 4～9.7 m | 70 | 縄. 中（勝） | |
| C 38 住 | 〃 | N 2 E 1, N 2.5～S 2.5 m | 90 | 〃 後半 | |
| C 39 住 | 〃 | N 1 E 1, S 0～5.7 m | 90 | 〃 （勝末） | |
| C 40 住 | 〃 | N 3 E 1, N 2.5～S 2.6 m | 70 | 〃 〃 | |
| C 41 住 | 〃 | N 3 E 1, S 1～6.5 m | 70 | 〃 （後Ⅱ） | |
| C 42 住 | C 13 | E 2 S 1, E 0.5～W 3 m | 65 | 弥. 後 | |
| C 43 住 | 〃 | E 2 S 1, E 1.8～W 2.8 m | 50 | 古墳. 後 | |

| 遺構番号 | 配管区番号 | 遺構所在位置 | 深さ cm | 時期 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| C 44 住 | C 13 | E 2 S 1, E 2.8～W 6.5 m | 55 | 古墳. 後 | |
| C 45 住 | 〃 | E 3 S 1, E 1.4～W 2.5 m | 60 | 〃 | |
| C 46 住 | 〃 | E 4 S 1, E 3～W 1 m | 50 | 〃 | |
| C 47 住 | 〃 | E 1 S 2, W 1.5～5.1 m | 55 | 〃 | E48住に切られる |
| C 48 住 | 〃 | E 2 S 2, E 2.3～7.3 m | 70 | 〃 | |
| C 49 住 | 〃 | E 3 S 2, E 3～10m | 55 | | |
| C 50 住 | 〃 | E 1 S 3, E 0.5～W 5.2 m | 40 | 縄. 中？ | |
| C 51 住 | 〃 | E 2 S 3, E 0.5～4.5 m | 55 | 古墳. 後 | |
| C 52 住 | 〃 | E 2 S 3, W 2.9～6 m | 45 | 平安 | |
| C 53 住 | 〃 | E 2 S 4, W 4.6～9.3 m | 40 | 縄. 中（勝） | 平井出ⅢA |
| C 54 住 | 〃 | E 2 S 4, W 1～4.8 m | 45 | ？ | 荒れ |
| C 55 住 | 〃 | E 1 S 4, W 2.8～E？ | 55 | 古墳 | |
| C 56 住 | C 11 | S 2 S 3, L, W 0～5.5 m | 90 | 〃，前 | |
| C 57 住 | 〃 | S 1 W 1 | 90 | 縄中（後Ⅱ～Ⅲ） | C56住に西を切られる |
| C 58 住 | 〃 | W 1 N 1, E 0.4～5.2 m | 80 | 弥. 後 | |
| C 59 住 | 〃 | W 1 N 1, E 0.9～4.2 m | 100 | 古墳. 後 | |
| C 60 住 | 〃 | W 2 N 1, W 1.6～E 4 m | 52 | 〃 | |
| C 61 住 | 〃 | N 1 W 4, W 1.7～8.2 m | 50 | 〃 | |
| C 62 住 | 〃 | N 1 W 1, W道へ | 70 | 〃 | |
| C 63 住 | 〃 | W 1 N 2, E 2.5～W道へ | 70 | 弥？ | |
| C 64 住 | 〃 | W 3 N 2, E 0.4～4.3 m | 72 | 縄. 早 | |
| C 65 住 | 〃 | W 4 N 2, E 3～7.4 m | 50 | 古墳. 後 | |
| C 66 住 | 〃 | W 5 N 2, E 3.4～7.4 m | 46 | 平安 | |
| C 67 住 | 〃 | W 3 N 3, W 0.8～5.2 m | 50 | 弥？ | |
| C 68 住 | 〃 | W 2 N 3, W 1.6～E 4.6 m | 55 | 古墳. 後 | |
| C 69 住 | 〃 | N 4 W 2, E 2～6.7 m | 45 | 弥. 後 | |
| C 70 住 | 〃 | N 4 W 4, E 2～7 m | 50 | 古墳. 後 | |
| C 71 住 | C 18 | W 1 S 2, S 2.5～6.2 m | 50 | 弥？ | |
| C 72 住 | 〃 | W 2 S 1, W 1.4～6.4 m | 55 | 縄中. 末 | |
| C 73 住 | 〃 | W 2 S 1, E 0.7～6.6 m | 50 | 縄. 後 | |
| C 74 住 | 〃 | W 3 S 1, E 3～7.7 m | 45 | 縄. 後 | |
| C 75 住 | C 16 | W 3 N 3, S 0.5～5.2 m | 50 | 〃 | |
| C 76 住 | 〃 | W 3 N 4, S 0.8～6.1 m | 50 | 弥？ | 石包丁片 |
| C 77 住 | 〃 | W 2 N 5, N 1.2～6.6 m | 40 | 縄. 晩 | |
| C 78 住 | 〃 | W 2 N 3, S 1～5.9 m | 45 | 縄. 後. 晩 | |
| C 79 住 | C 18 | W 3 S 6, S 2～6 m | 50 | 〃 | |
| C 80 住 | 〃 | W 3 S 7, S 4～9 m | 50 | 〃 ？ | |
| C 81 住 | C 17 | W 1 S 8, S 1～5.8 m | 60 | 弥？ | 石厳 |
| C 82 住 | C 11 | W 1 N 5, N 2.3～S ？m<br>E 4.2～W ？m | 80 | 縄中（後Ⅳ） | |
| C 83 住 | 〃 | W 1 N 5, L, N 2.3～5.5 m | 60 | 〃（勝） | C82住に切られる |
| C 84 住 | 〃 | W 1 N 4, L, S 5.2～8.2 m | 60 | 弥. 後？ | 西に向く |
| C 85 住 | 〃 | W 1 N 4, S 0.7～5 m | 55 | 古墳. 後 | |
| C 86 住 | 〃 | W 1 N 5, E 4.4～7.4 m | 55 | 弥. 後？ | |

| 遺構番号 | 配管区番号 | 遺構所在位置 | 深さ cm | 時期 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| C 87 住 | C 11 | W2N5，W2.4～6.7m | 70 | 弥．後 | |
| C 88 住 | 〃 | W2N5，E0.4～4.8m | 50 | 古墳．後 | C89住に一部のる |
| C 89 住 | 〃 | W2N5，E4.4～6.3m | 60 | 縄．早末 | 北に向く |
| C 90 住 | 〃 | W3N5，W1.8～E1.5m | 55 | 縄．中（勝） | 南西コーナーが出る<br>北に向く |
| C 91 住 | 〃 | W3N5，W1.8～E1.5m | 55 | 弥．後？ | 北に向く，C92住を切る |
| C 92 住 | 〃 | W3N5，E1.5～6.3m | 45 | 縄．後？ | 西に石囲炉，C93住の上に張り床 |
| C 93 住 | 〃 | W3N5，E5.6～10.8m | 50 | 縄中．後半？ | 西に地床炉 |
| C 土 1 | C 12 | W3N3，N4.2～5.3m | 50 | 〃（後Ⅲ） | |
| C 土 2 | 〃 | W3N1，S8.2～9.7m | 50 | 縄中．後半 | |
| C 土 3 | 〃 | E1N3，S0～1.2m | 120 | 〃 | |
| D 1 住 | D 20 | S1E1，W3.5～6.7m | 64 | 古墳．後 | |
| D 2 住 | 〃 | S1E1，W3.5E不明 | 70 | 〃 | 6号住居址 |
| D 3 住 | 〃 | S1E3，E2.2～7.2m | 40 | 〃 ？ | |
| D 4 住 | 〃 | S1E3，W3.7～9.5m | 65 | 〃 後 | |
| D 5 住 | 〃 | S2S3，L，E1W2～8m | 86 | 〃 中？ | |
| D 6 住 | 〃 | S2S3，L，E1W6～ | 61 | 〃 後 | D 5 住を切る |
| D 7 住 | 〃 | S1E1，W4.4の南北かん N2.6～5.6m | 50 | 縄．中後半 | |
| D 8 住 | 〃 | S2E2，E2～8.7m | 60 | 古墳．後 | |
| D 9 住 | 〃 | S2E1，W2～E道へ | 80 | 〃 〃 | |
| D 10 住 | 〃 | E2S2，E3.5～W1.4m | 40 | 〃 〃 | |
| D 11 住 | 〃 | E1S3，W1.7～7.3m | 60 | 縄．中．後半 | |
| D 12 住 | 〃 | S4E1，W6.5～14.5m | 95 | 古墳 | |
| D 13 住 | 〃 | S4E2，W2.5～6.4m | 50 | 弥．中 | |
| D 14 住 | 〃 | S4E3，E2.5～6.2m | 70 | 縄．早末 | |
| D 15 住 | D 19 | N1W2，W1.3～6.8m | 55 | 古墳．後 | 須恵器 |
| D 16 住 | 〃 | N1W3，W3.6～8.1m | 45 | 縄中．後半 | |
| D 17 住 | 〃 | N1W3，E4～8m | 55 | 弥．後 | |
| D 18 住 | 〃 | N2W3，E2～W3m | 50 | 〃 | はり床 |
| D 19 住 | 〃 | N2W3，W0～4.6m | 55 | 縄．中．後半 | D18住に切られる |
| D 20 住 | 〃 | N2W1，S3.5～10.3m | 90 | 縄．後？ | |
| D 21 住 | 〃 | N3W1，L，E4～S4.4m | 40 | 縄．中（勝末） | |
| D 22 住 | 〃 | N3W2，E1.8～3.5m | 78 | 〃 （後半） | |
| D 23 住<br>(22住) | 〃 | N4W3，E4.2～8.2m | 50 | 〃 後半 | |
| D 24 住 | 〃 | N4W2，W1.7～6.4m | 63 | 〃 （勝末） | 昭和 52 年度調査 |
| D 25 住 | D 17 | N1W1，E2.8～4.8m | 65 | 〃 （後半） | D26住を切る |
| D 26 住 | 〃 | N1W1，E5～9m | 60 | 〃 早末？ | |
| D 27 住 | 〃 | N1W2，W3.8～E0.5m | 50 | 縄文？ | |
| D 28 住 | 〃 | N2W1，E0.1～2.4m | 60 | 縄中．後半 | 石棒（折れ）<br>D29住に切られる |
| D 29 住 | 〃 | N2W1，E2.4～6.7m | 60 | 弥．後 | 有肩扁状形石器 |
| D 30 住 | D 15 | N2W1，W0.5～E5.2m | 70 | 古墳．後 | 椀（完形） |
| D 31 住 | D 17 | N2W2，E0.8～W7.8m | 100 | 〃 | |
| D 32 住 | 〃 | N2W2，E2.7～ | 60 | ？ | D31住に切られる |
| D 33 住 | 〃 | N2W3，W3～E3.5m | 80 | 古墳．後 | |

| 遺構番号 | 配置区番号 | 遺構所在位置 | 深さ cm | 時期 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| D 34 住 | D 17 | N 3 W 2, E 1.3～6.7 m | 70 | 弥. 後 | |
| D 35 住 | 〃 | N 3 W 2, W 2.4～5.7 m | 50 | 縄. 中. 後半 | |
| D 36 住 | 〃 | N 3·4 W 1, E 4.6～W 1 m | 75 | 古墳. 後 | |
| D 37 住 | 〃 | N 3·4 W 2, W 0.5～3 m | 45 | 弥. 中 | D38住に切られる |
| D 38 住 | 〃 | N 3·4 W 2, E 4.8～W 0.5 m | 70 | 古墳. 後 | D37住, D39住を切る |
| D 39 住 | 〃 | N 3·4 W 2, E 4.8～6.6 m | 50 | 縄. 早末？ | D38住, D40住に切られる |
| D 40 住 | 〃 | N 3·4 W 3, E 1.6～W 4.8 m | 80 | 古墳. 後 | D39住を切る |
| D 41 住 | 〃 | N 3·4 W 3, E 4.5～6.5 m | 35 | 縄. 早末？ | D42住に切られる |
| D 42 住 | 〃 | N 3·4 W 3, E 6.5～W 4 E 0.5 m | 70 | 縄. 前 | (諸磯式) D41住を切る |
| D 43 住 | 〃 | N 3·4 W 4, E 3.5～6.1 m | 50 | 弥. 後 | |
| D 44 住 | 〃 | N 3·4 W 5, W 0.5～4.6 m | 70 | 縄. 中. 後半 | |
| D 45 住 | 〃 | N 4 W 6, S 3～(人参畑) | 50 | 古墳. 後 | |
| D 46 住 | D 2 | S 3 E 3, S 1.1～4 m | 55 | 弥. 後？ | 石鏃片 |
| D 47 住 | 〃 | S 5 E 2, N 3.7～8 m | 30 | 弥. 後 | |
| D 48 住 | 〃 | S 6 E 1, S 3～6.3 m | 70 | 〃 | |
| D 49 住 | 〃 | S 4 E 3, S 1～4.8 m | 40 | 縄. 後？ | |
| D 50 住 | 〃 | S 5 E 3, N 0.5～S 2.6 m | 45 | 縄. 後 | |
| D 51 住 | D 15 | W 2 N 2, W 2.8～E 5.4 m | 90 | 古墳. 後 | |
| D 52 住 | 〃 | W 2 N 2, E 5.7～9.7 m | 45 | 縄. 早末 | |
| D 53 住 | 〃 | W 4 N 2, W 0.3～E 4.8 m | 60 | 古墳. 後 | |
| D 54 住 | 〃 | W 4 N 3, E 1.2～4.9 m | 60 | 古墳. 前. 中 | D55住を切る |
| D 55 住 | 〃 | W 4 N 3, E 4.9～7.2 m | 40 | 弥. 後？ | |
| D 56 住 | 〃 | W 4 N 3, W 0.6～5.1 m | 55 | 〃 | |
| D 57 住 | 〃 | W 3 N 3, W 0.6～E 6.5 m | 60 | 弥. 後 | |
| D 58 住 | 〃 | W 1 N 3, E 2.5～8.7 m | 90 | 古墳. 前中 | |
| D 59 住 | 〃 | W 4 N 4, E 1.5～W 4.5 m | 55 | 古墳. 前中？ | |
| D 60 住 | 〃 | W 5 N 4, E 2～W 1.5 m | 45 | 弥 ？ | |
| D 61 住 | 〃 | W 1 N 4, E 3.5～8.5 m | 50 | 古墳. 後 | |
| D 62 住 | D 13 | W 4 N 1, E 0～4.2 m | 40 | 平安 | |
| D 63 住 | 〃 | W 5 N 2, W 3.2～7.8 m | 50 | 弥. 中 | |
| D 64 住 | D 15 | W 2 N 5, W 1.4～5.9 m | 45 | 弥？ | |
| D 65 住 | 〃 | W 2 N 5, E 1.9～6.5 m | 45 | 弥. 中？ | |
| D 66 住 | 〃 | W 3 N 5, W 0.2～4.9 m | 55 | 古墳. 前. 中？ | |
| D 67 住 | 〃 | W 3 N 6, E 4.1～7.8 m | 55 | 縄. 中後半？ | |
| D 68 住 | 〃 | W 3 N 6, E 3.5～W 1.5 m | 45 | 古墳. 前. 中？ | 土器片 1, 鉄器片 1 ？ |
| D 69 住 | D 13 | N 1 W 2, E 1～6.9 m | 60 | 〃 | |
| D 70 住 | D 18 | N 3 E 1, L, S 1～6.5 m | 50 | 縄. 中 (後Ⅲ) | |
| D 71 住 | D 14 | N 3 W 1, L, N 3～7 m | 60 | 古墳. 前 | |
| D 72 住 | 〃 | N 2 W 1, S 1～N 4 m | 60 | 〃 後 | D73住を切る |
| D 73 住 | 〃 | N 2 W 1, N 4～6 m | 50 | 弥. 後 | D72住に南を切られる |
| D 74 住 | D 13 | N 1 W 1, S 0.5～4.7 m | 50 | 〃 | 中島終末 |
| D 75 住 | 〃 | N 2 W 3, E 3.7～7.2 m | 35 | 弥. 中 | |
| D 76 住 | 〃 | N 2 W 3, W 1～E 3.3 m | 30 | 弥. ？ | 土器片 1 |

| 遺構番号 | 配管区番号 | 遺構所在位置 | 深さ cm | 時期 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| D 77 住 | D 13 | N 3 W 1, E 1.7～W道 | 70 | 弥. 後 | 打石包丁 1 |
| D 78 住 | 〃 | N4 W 1, E 1～N 2.2～S 3 m | 70 | 弥. 後 | 打石包丁 2 |
| D 79 住 | D 16 | N 4 E 3, E 0.5～W 1.5 m | 90 | 古墳. 後? | 北東コーナー, 遺物少 |
| D 80 住 | 〃 | N 4 E 3, W 1.7～4.6 m | 45 | 弥. 後? | 〃 |
| D 81 住 | 〃 | N 1 E 1, W 0.5～5.6 m | 45 | 縄. 前? | 土器片 1 |
| D 82 住 | 〃 | N 1 E 2, E 3.2～7 m | 70 | 縄. 早末? | |
| D 83 住 | 〃 | N 1 E 2, W 2.5～6 m | 60 | 縄. 早末 | |
| D 84 住 | 〃 | N 1 E 3, E 2.5～5.3 m | 100 | 縄. 中（後Ⅲ） | 北へのびる |
| D 85 住 | 〃 | N 1 E 3, W 0.5～4.3 m | 45 | 縄. ? | 〃 |
| D 86 住 | 〃 | N 1 E 4, W 4～10.6 m | 60 | 弥. 後? | 遺物少 |
| D 87 住 | 〃 | N 2 E 4, E 0.7～5.7 m | 60 | 弥. 後. | 〃 |
| D 88 住 | 〃 | N 2 E 3, W 0.9～6.1 m | 55 | 弥. 後 | |
| D 89 住 | 〃 | N 2 E 2, W 3～9 m | 70 | 〃 | D90住を切る |
| D 90 住 | 〃 | N 2 E 2, W 0.2～3 m | 50 | 縄. ? | 遺物なし<br>D89住に西は切られる |
| D 91 住 | 〃 | N 2 E 1, L, N 2.8～7.6 m | 60 | 古墳（前. 中） | |
| D 92 住 | 〃 | N 3 E 1, L, N 2～7.1 m | 45 | 縄. 後 | |
| D 93 住 | 〃 | N 4 E 1, L, N 0.8～5.3 m | 55 | 縄（中末～後） | |
| D 94 住 | 〃 | N 3 E 1, W 5.3～10.1 m | 70 | 縄. 早末 | 石匕, 茅山式 1 |
| D 95 住 | 〃 | N 3 E 3, E 0.5～5.3 m | 45 | 弥. 後? | 土器片 1 |
| D 96 住 | 〃 | N 3 E 4, E 0.6～6.1 m | 70 | 〃 | |
| D 97 住 | 〃 | N 3 E 4, W 3～7.5 m | 60 | 弥. 後 | |
| D 98 住 | D 14 | N 2 E 1, L, N 5.6～S 1 m | 70 | 古墳. 後 | |
| D 99 住 | 〃 | N 1 E 2, E 5.5～0.5 m | 55 | 縄. 早末 | |
| D 100 住 | 〃 | N 1 E 2, E 0.4～W 5.7 m | 50 | 〃 | |
| D 101 住 | 〃 | N 1 E 2, W 3～7.0 m | 40 | 古墳（前. 中） | D 100 住の上にのる |
| D 102 住 | 〃 | N 1 E 3, W 0.6～7.2 m | 80 | 縄. 後 | |
| D 103 住 | 〃 | N 2 E 3, W 0～5.2 m | 50 | 縄. 早末? | 土器小片 2 |
| D 104 住 | 〃 | N 3 E 4, E 2.5～W 4.3 m | 70 | 古墳. 後 | |
| D 105 住 | 〃 | N4 E 1, L, S 0.5～N 3.9 m | 55 | 弥. 後 | 中島式 |
| D 106 住 | 〃 | N3 E 1, L, S 0.8～5.6 m | 60 | 古墳（前. 中） | |
| D 107 住 | 〃 | N5 E 2, E 2.6～W 2.2 m | 45 | 縄. 早末 | |
| D 108 住 | 〃 | N 5 E 3, W 0.2～6.5 m | 60 | 弥. 後 | 炉址西側に |
| D 109 住 | 〃 | N 3 E 2, W 3～5.4 m | 40 | 縄. 早末? | 北に向う |
| D 110 住 | 〃 | N 4 E 3, W 4～8.5 m | 40 | 古墳. 後 | |
| D 111 住 | D 18 | S 1 E 2, E 3.3～W 1.5 m | 70 | 〃 〃 | |
| D 112 住 | 〃 | S 1 E 1, W 4.2～E道N 1 m | 60 | 縄. 中（勝末） | |
| D 113 住 | 〃 | S 1 E 1, L, N 1.8～6.2 m | 70 | 縄. 晩（初） | |
| D 114 住 | 〃 | S 1 E 1, L, N 6.5～9 m | 50 | 縄. 早末 | |
| D 115 住 | 〃 | S 2 E 1, L, S 2.8～W 0.9 m | 50 | 縄. 後? | 土器小片 2, 北西に向く |
| D 116 住 | 〃 | S2 E1, W 2.8～E ? L N 1.5m | 60 | 〃 ? | |
| D 117 住 | 〃 | S2 E1, L, N 4.8～8.8 m | 40 | 縄. 後. 晩 | |
| D 118 住 | 〃 | S3 E1, L W 1.7～E ? S 3.2～N 1.1 m | 55 | 〃 ? | |
| D 119 住 | 〃 | S3 E1, L, N 1.2～6.4 m | 55 | 縄. 中後半 | 石囲炉西側に |

| 遺構番号 | 配管区番号 | 遺構所在位置 | 深さ cm | 時期 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| D 120 住 | D 18 | S4 E1, L, S 4.2～0.2 m | 90 | 縄. 後 | 浅い沈線と磨消縄文の土器片 |
| D 121 住 | 〃 | S 4 E 1, W 2.3～E 道へ | 65 | 〃 | |
| D 122 住 | 〃 | S 1 E 2, W 1.7～5.3 m | 45 | 古墳(前. 中)? | |
| D 123 住 | 〃 | S 1 E 2, W 5.4～8.2 m | 40 | 縄 ? | |
| D 124 住 | 〃 | S 1 E 4, E 2.5～W 1.8 m | 70 | 縄. 早末 | 南へ向く |
| D 125 住 | 〃 | S 1 E 5, E 0.2～W 3.8 m | 35 | 弥 ? | |
| D 126 住 | 〃 | S 2 E 2, E 4～W 0.3 m | 55 | 弥. 後? | |
| D 127 住 | 〃 | S 2 E 2, W 0.4～3.7 m | 45 | 弥 ? | 無文小片3,土壙か掘りこむ |
| D 128 住 | 〃 | S 2 E 3, E 5.3～9 m | 50 | 縄. 早末. 前? | オセンベイ土器 |
| D 129 住 | 〃 | S 2 E 3, E 1.5～5 m | 75 | 縄. 後? | 凹石1,無文土器片,南に向く |
| D 130 住 | 〃 | S2 E3, E 0.6～W 4.6 m | 60 | 縄. 早末 | |
| D 131 住 | 〃 | S 2 E 6, E 2.3～7.2 m | 50 | 古墳. 後 | |
| D 132 住 | 〃 | S 3 E 1, W 5.2～9.6 m | 42 | 縄. 後? | |
| D 133 住 | 〃 | S 3 E 2, E 1.7～W 2.8 m | 50 | 弥. 中? | |
| D 134 住 | 〃 | S 3 E 2, W 3.5～6.1 m | 60 | 縄 ? | 北に向く, 無文片 1 |
| D 135 住 | 〃 | S 3 E 3, E 0.5～6 m | 50 | 弥 ? | 無文片 1 |
| D 136 住 | 〃 | S 3 E 3, E 0.2～W 5.2 m | 75 | 弥. 後 | 炉址南側につく |
| D 137 住 | 〃 | S 3 E 4, E 0.5～4.5 m | 70 | 縄. 中(後Ⅲ) | |
| D 138 住 | 〃 | S 4 E 1, W 3.1～7.5 m | 100 | 古墳. 後 | |
| D 139 住 | 〃 | S4 E2, E 3.1～W 3.5 m | 90 | 〃 | 北に 5 住あり |
| D 140 住 | 〃 | S 4 E 3, E 1.7～9 m | 80 | 古墳(古) | |
| D 141 住 | 〃 | S 4 E 3, E 1.6～2.9 m | 60 | 縄 ? | 東D 140 住. 西は 142 住に切られる |
| D 142 住 | 〃 | S 4 E 3, W 2.7～4.1 m | 75 | 弥. 後? | 北に3住あり.北に向うコーナー |
| D 143 住 | D 12 | N 1 E 1, L, S 0.6～4.1 m | 47 | 縄. 後? | 無文片 1 |
| D 144 住 | 〃 | N 1 E 1, L, S 4.2～8.1 m | 35 | 〃 | (火事) |
| D 145 住 | 〃 | N1 E2, E 3.1～W 1.1 m | 60 | 〃. 早末 | |
| D 146 住 | 〃 | N 1 E 3, W 0.1～4.7 m | 45 | 弥. 後半 | 炉址中心に出, 北に向う |
| D 147 住 | 〃 | N 3 E 2, E 3.8～8.0 m | 45 | 弥? | 石鏃折れ 1 のみ |
| D 148 住 | 〃 | N 3 E 3, W 0.4～5.4 m | 35 | 〃(阿島式) | 土製紡錘車(火事) |
| D 149 住 | 〃 | N 4 E 2, E 2.9～6.8 m | 40 | 〃? | 遺物なし |
| D 150 住 | 〃 | N 4 E 1, L N 3.8～S 1.6 m W 2.2～E 道へ | 45 | 縄. 晩? | (火事) |
| D 151 住 | 〃 | N 5 E 1, W 5.4～7.5 m | 55 | 弥(北原式) | 南西コーナー, 北東へ |
| D 152 住 | D 11 | N 2 E 5, E 2.1～5.4 m | 50 | 弥. 後 | 紡錘車, 南西にコーナー |
| D 153 住 | 〃 | N 1 E 2, E 2.4～W 2.6 m | 40 | 〃. 中? | (火事) |
| D 154 住 | 〃 | N 2 E 1, E 0.2～W 4.9 m | 40 | 〃(北原式) | |
| D 155 住 | 〃 | N 1 E 1, W 1.8～5.8 m | 73 | 縄. 早末 | 北へ向く |
| D 156 住 | 〃 | N 2 E 1, N 1.2～4.7 m | 50 | 弥. 中? | 北へ向く |
| D 157 住 | 〃 | N 3 E 1, E 0.4～E へ | 40 | 〃 〃? | 無文片 2 (荒れ) |
| D 158 住 | 〃 | N 3 E 3, E 0.4～6 m | 50 | 〃 〃 | |
| D 159 住 | 〃 | N 3 E 3, W 1.5～5.8 m | 40 | 〃? | |
| D 160 住 | D 13 | N 5 W 3, E 1.7～6.5 m | 40 | 〃. 北原式 | 北側中央に炉址南に向く |
| D 161 住 | 〃 | N8 W1, L, S 4.3～9.5 m | 20 | 〃. 中? | 土器片1,南側中央に炉址 |
| D 162 住 | 〃 | N8 W1, L, E 3.8～W? N 2.6～S 2 m | 50 | 〃. 北原式 | |

| 遺構番号 | 配管区番号 | 遺構所在位置 | 深さ cm | 時期 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| D 163 住 | D 13 | N7W1，L，W 0.6～E 4.6 m<br>S 1.2～N 3.3 m | 40 | 弥，中 | 石敷1，小形石囲炉，東側につく |
| D 164 住 | 〃 | N6W1，E 3.4～9.5 m | 50 | 〃 〃 | 北中央に炉址，南に向く |
| D 165 住 | 〃 | N6W2，W 0.3～E 5.2 m | 70 | 〃 〃 | |
| D 166 住 | 〃 | N5W2，E 1.7～W 1.9 m | 40 | 〃 〃 | 北西のコーナー（火事）南に向く，片刃磨石斧 |
| D 土 1 | D 17 | N1W1，E 0.3～1.7 m | 75 | 弥 ？ | |
| D 土 2 | 〃 | N3W3，E 2.9～4 m | 70 | 弥 | |
| D 土 3 | D 15 | N1W2，E 4.5～6 m | 55 | ？ | 遺物なし |
| D 土 4 | D 16 | N1E4，E 0.5～2.4 m | 70 | 縄，中？ | 打石斧1 |
| D 土 5 | D 18 | N2E3，W 5.6～6.6 m | 80 | ？ | 遺物なし |
| D 土 6 | 〃 | N3E3，W 7.2～8.3 m | 60 | ？ | 遺物なし |
| D 方形周溝 I | D 12 | S1E2，W 2～5 m<br>S1E3，W 1.5～4 m | 60<br>70 | 弥 | 方形周溝墓とみる |
| D 〃 II | D 2，D 4 | N1～N3列に東西方向に西は先端でつながる | 100～ | 中世 | 伊久間原城跡に関連？ |
| 赤坂古墳 | A 3 | N4W2，N9～17m | | 古墳，後期 | 古墳中心にN5杭があり配管を変更する。南西に羨道または羨門部とみる敷石があり，調査し，これを配管はさける<br>須恵器片，敲点 |

## Ⅳ まとめ

伊久間原は下伊那地方での屈指の遺跡として知られ，今迄は一部分の調査と表面採集によるもので，遺跡のひろがりも推定の範囲をでなかった。今次調査は伊久間原全面 55.7 haにわたる灌水工事により，12 m～15m間隔に配管が行われ，幅30cm（幹線70cm），深さ70cm以上の溝が掘られ，この工事の立合調査によって前記の遺構とその分布状態を確認することができた。

伊久間原面の微地形にみる谷頭浸蝕の終わる地点を中心にしたその西側に各期の集落が展開していることが確かめられた。縄文早期末の集落は，昭和52年度調査のI区の22号住居址を北限にして，南から南西に，縄文中期の集落は昭和52年度調査のII区－F 4・F 8区を北限とし，南はD17・18を境にした範囲に勝坂式から加曽利E式に比定される中期後半II～IV期の集落が，その時期により僅かなずれをもちながら東側を開口して馬蹄形に形成されているとみられる。縄文後，晩期になると数は減少し，段丘端部の黒土層の堆積の深い地域－ハマイバ・下原・堀垣外の一部に分散されていることが注目される。晩期後半の条痕文の深鉢の出土をみたB 5号住居址とB 1号住居址は北面の大原段丘崖下東端部の孤立した位置にあり

今後に課題を残すものである。

弥生時代では中期前半阿島式から中期後半の北原式・恒川式の集落は伊久間原面の南端部にあり，後期になるとそれより僅か北に寄って中心をもち大集落を展開しており，おそらく谷頭浸蝕の北への進行によって水利による集落の移行が予想される。後期集落はさらに下原・ハマイバ地域に小集落の点在を示していることが注目される。

古墳時代の前・中期には集落は縮小を示すが，後期になると谷頭浸蝕の終わる地点を中心にした西側の台地面に大集落を形成するが，弥生後期にみられた小集落の分散はみられない。平安時代の検出住居址は僅か4と激減を示し，中世には伊久間城跡に関連する周溝が確かめられたが住居址の確認はなく，江戸時代以後現在に至って居住の跡を残していない。

縄文時代早期より中期，弥生時代，古墳時代を通じて大集落が形成され，それが湧水地帯を離れる北にいくに従い遺構は減少し，やがて皆無となる。また大原段丘崖下の崖錐堆積地帯の不安定な地形を避けている。各時代・時期にみられる大集落の大きな消長は生活基盤の変化－自然条件・社会的条件によるものであり，原始・古代においては特に気象の変化による人口の増減，移動によるものが大であったといえよう。

伊久間原遺跡群は縄文早期末より平安時代に至る各時期の集落をもつ大遺跡であることが確認され，昭和52年度までに発見の住居址を合せると381の住居址が確かめられているが，おそらくその倍数以上の各期にわたる住居址，その他の遺構の存在が予想される。

配管工事によって，遺跡の破壊が憂慮されたが，遺構の巾30㎝，大きなのは70㎝切られたのが見られるが，大きな破壊からは免かれたのはせめてもといえる。遺跡は今後農地として使用されるため遺跡は保存される可能性は強い。

昭和27・29年の調査により伊久間原古代住居址群として，喬木村重要文化財に指定してきているが，今次調査による遺構群を含めて，伊那谷中位段丘上の重要遺跡として保存に万全を期すべきを強調したい。

配管工事請負業者は遺跡立合調査に際しては極めて協力的であり，常に配管埋立前に連絡があり，伊久間原全面の調査が可能であったが，ただ下請負業者の心得違いから，昭和53年度調査の下原1区の南側のC16地区は埋戻後の遺物の散布によって遺構の存在を認めたもので不十分な調査に終わったことは惜しまれる。

調査にあたっては，体のやって入る細い溝の中で，遺構・遺物の検出に，また上解けのため毎日泥だらけとなって作業に協力いただけた方々の献身的な態度に深謝したい。

（佐　藤　甚　信）

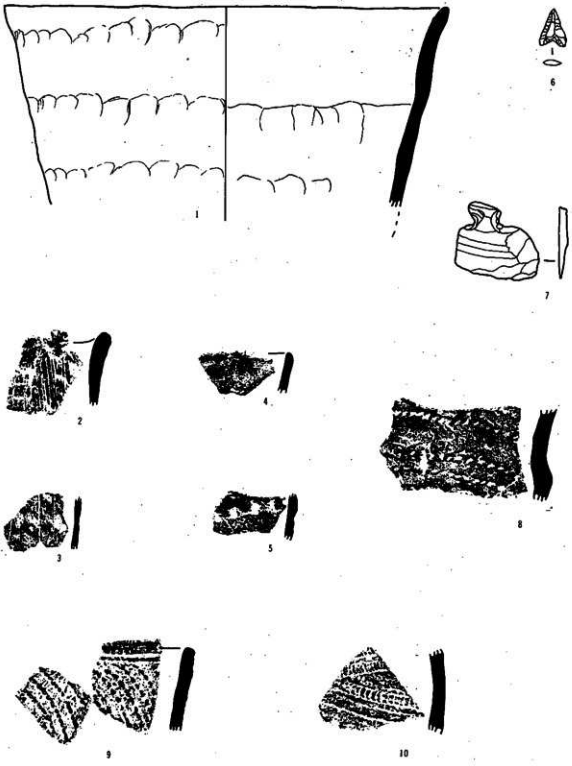



図6　伊久間原縄文早期末・前期末の遺物（1：2）

早期末　1…D 124住，2・3…D 99住．4…D 52住．5…C 89住．
6・7…D 94住．8…D 130住
前期末　9・10…D 42住

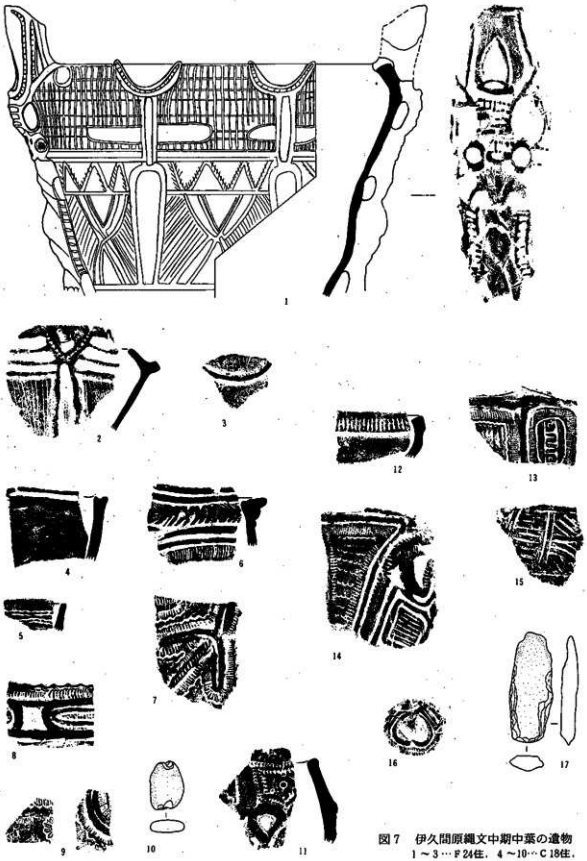



図７　伊久間原縄文中期中葉の遺物
１～３…Ｆ24住，４～10…Ｃ18住，
11…Ｅ40住，12～17…Ｃ21住

図８　伊久間原縄文中期後半の遺物（１：４）
１～８…Ｅ29住，９…Ｆ24住，10…Ｄ16住，
11…Ｅ７住，12～19…Ｃ82住，20…Ｃ72住，
21～23…Ｅ20住

図9　伊久間原縄文後・晩期の遺物（1：4）
1～7…D 92住，8～11…D 120住
12～14…D 113住，15～16…B 5住

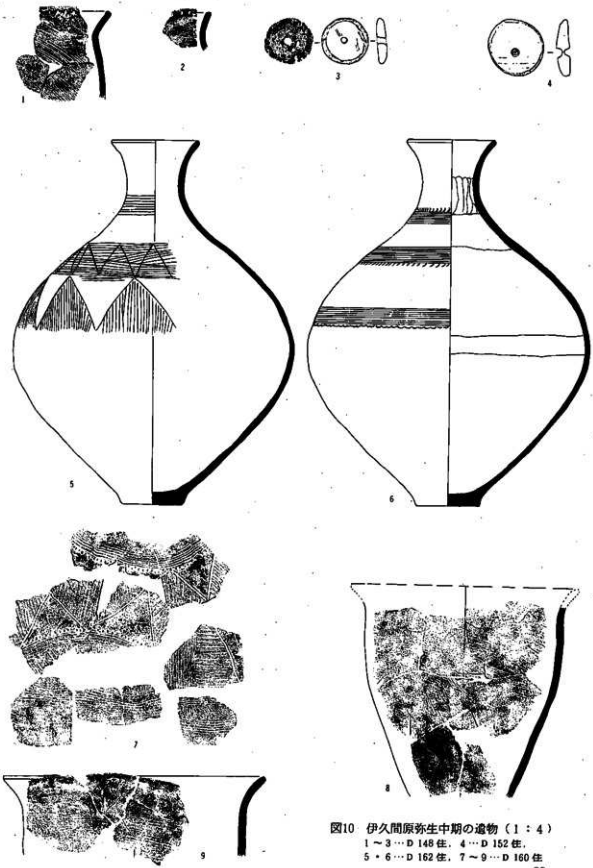



図10　伊久間原弥生中期の遺物（1：4）
1～3…D 148住，4…D 152住，
5・6…D 162住，7～9…D 160住

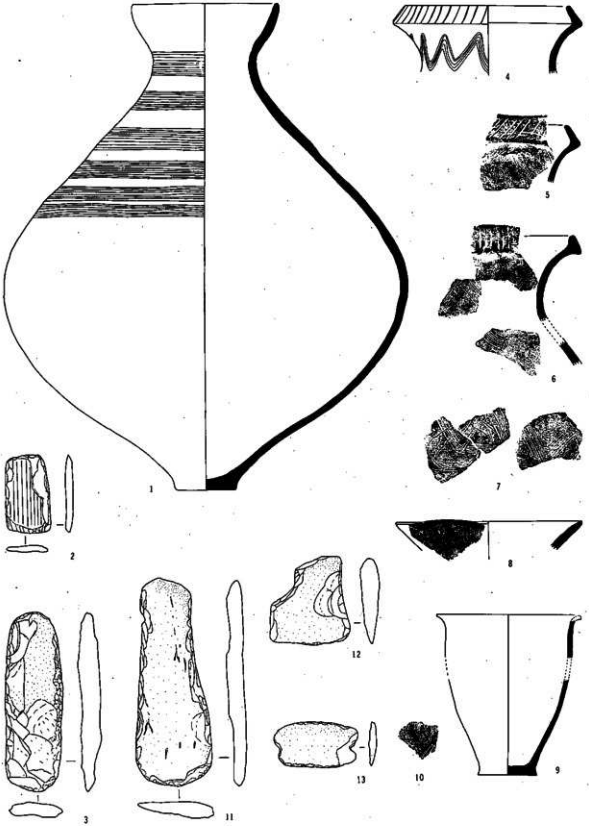



図11　伊久間原弥生中期末・後期の遺物（1：4）

中期　1…D63住，2…D 166住

後期　4・5…D47住，6・7…C58住，8…E 3住，9・10…E37住，11…C 81住，12…D29住，13…D 77住

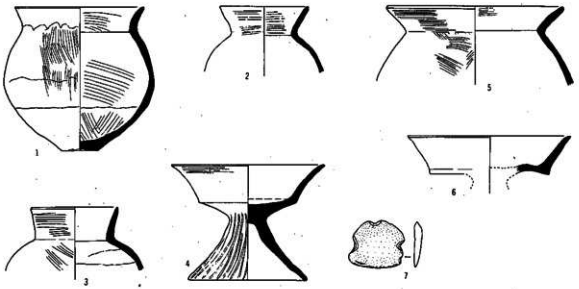
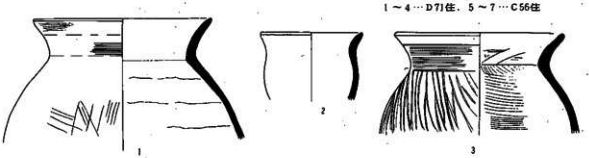


図12　伊久間原古墳時代前・中期の遺物
（1：4）
1～4…D71住，5～7…C56住



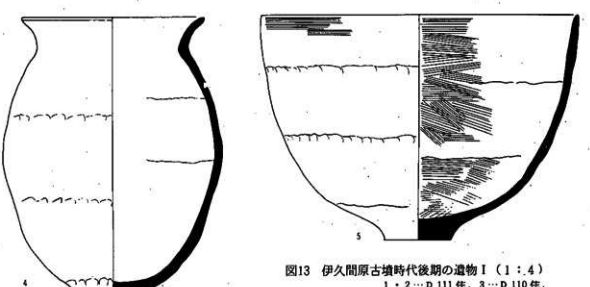


図13　伊久間原古墳時代後期の遺物Ⅰ（1：4）
1・2…D 111住，3…D 110住，
4…C 18住，5…D 40住

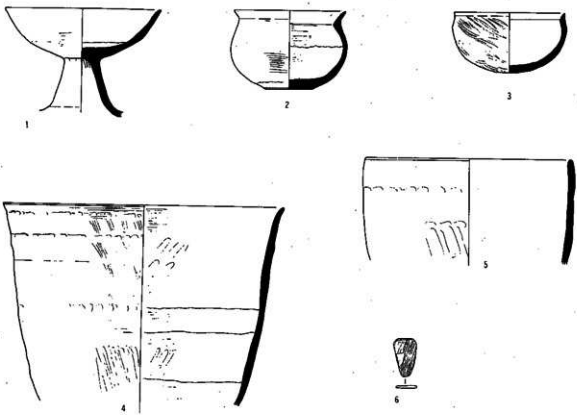



図14　伊久間原古墳時代後期の遺物Ⅱ（1：4）
1…D72住．2・5…D30住．3…C49住．
4…D31住．6…D 111 住

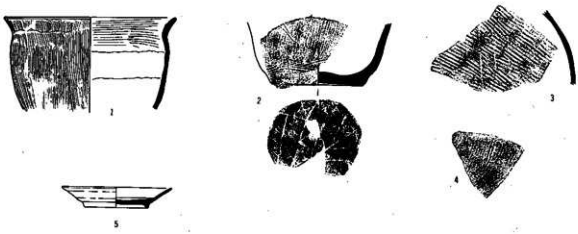



図15　伊久間原平安時代の遺物（1：4）
1～4…D62住．5…C 2住

# 図版Ⅰ　遺　　跡

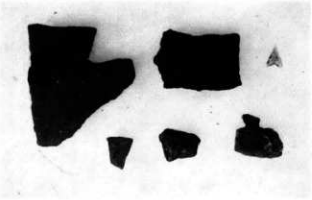
伊久間原全景―北より

伊久間原下原―北東より

赤坂古墳―墳頂に大きな割石がのる

赤坂古墳の西側に配管溝が掘られる―右下に羨道部とみる敷石が発見され，さらに溝は西に迂回する

## 図版II　遺　　物



縄文早期末の土器・石器

縄文中期中葉の土器と土偶尻部(右下)－C21住出土

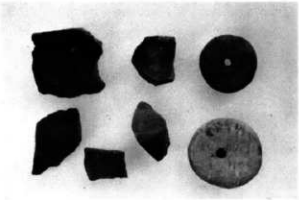
縄文中期中葉末の土器－F24住出

縄文中期後半の土器出土状況　右は土偶頭部－E29住

縄文中期後半の土器－左E 7住，右E29住出土

縄文晩期初頭の土器－D113住出土

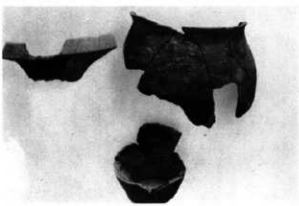
縄文晩期後半の土器－B 5住出土



弥生中期阿島式土器と紡錘車－D148住出土
（右下は紡錘車の未製品？－D152住出土）

弥生中期後半の壺の出土－D63住

弥生中期後半の壺－D162住出土



弥生後期の土器－左E37住，右D47住出土

弥生時代の石器－左よりD77住，D166住，D29住出土

古墳時代前・中期の土師器－D71住出土

古墳時代後期の土師器
－左よりD30住，C49住，D110住出土

古墳時代剣形石製模造品－D111住出土

平安時代C2号住居址出土灰釉陶器段皿

## 図版Ⅲ　調査スナップ

狭い溝の中の調査

狭い溝の中の調査

掘上げた土の中で遺物をさがす

配管溝の幅と深さ

# 調　査　組　織

1. 伊久間原遺跡調査委員会

| | |
|---|---|
| 宮下　恵 | 喬木村教育委員会委員長 |
| 下岡　輝男 | 喬木村教育長 |
| 本間　孝佐 | 喬木村教育委員 |
| 小池　敬次 | 〃 |
| 矢沢　宮治 | 〃 |
| 原　五郎 | 喬木村文化財保護委員長 |
| 吉川　敏雄 | 小渋土地改良区伊久間事業所 |
| 丸山　春美 | 〃 |
| 吉沢　重幸 | 〃 |

2. 調　査　団

| | |
|---|---|
| 団　長 | 佐　藤　甦　信 |

3. 指　導　者

| | |
|---|---|
| 大沢　和夫 | 長野県考古学会会長 |
| 矢亀　勝俊 | 下伊那誌下伊那地質誌編集委員会会長 |

4. 事　務　局

| | |
|---|---|
| 原　義顕 | 喬木村教育委員会総務係長 |
| 田中　君子 | 喬木村教育委員会社会教育係 |

5. 作　業　員

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 平沢　稔 | 柳沢八重子 | 北村　重美 | 福島　明夫 | 牧内　住子 |
| 中平　兼重 | 下平　園枝 | | | |

遺物整理，製図　佐藤いなゑ　田口さなゑ

# お　わ　り　に

農業の近代化を図るための第１次農業構造改善事業が昭和28年伊久間原において施行され，続いて昭和53年度には小渋川より取水した竜東一貫水路の水を畑地帯に灌漑撒水して良質多量の農業生産を図るための小渋川畑地帯総合整備事業が実施されました。伊久間原は古くから埋蔵文化財の包蔵地として知られていたため，第１次農業構造改善事業の行なわれた昭和28年には堀垣外地籍を中心に発掘調査を実施し貴重な古代の資料を多量に得て調査報告書をまとめることができました。

昭和53年実施の小渋川畑地帯総合整備事業実施に際しては，昭和52年度事業として堀垣外２ケ所，下原２ケ所，計４ケ所を事業費600万円を投じて発掘調査を行い，多量の土器，石器，住居址を発見することが出来，「伊久間原（縄文早・中期，弥生後期の集落を中心とした）」の報告書をまとめることが出来ました。以上調査の結果から伊久間原は，喬木村屈指の埋蔵文化財包蔵地であり，堀垣外，舘立，ホウゲン館林，城の上，ハマイバ，下原等多数広範な遺構の所在地であるため，53年度畑灌工事により，12m～15m間隔に巾30cm～70cm，深さ70cm以上に溝が掘られて配管され，遺構が破壊されるおそれがある為，55.7haの全区域に亘り立合調査を実施しました。

調査については，南信土地改良事務所の委託により事業費150万円のご配慮を頂き，地元である小渋土地改良区伊久間事業所の格別のご協力と工事請負業者１工区日本水道，２工区吉川建設，３工区中部設備工業，４工区平和工業の４業者の協力により調査を進めることが出来ました。

直接調査を担当された佐藤団長を始めとする調査員，作業員は10月９日より昭和54年２月21日までの長期に亘り，時には寒風盾を刺す厳寒の中で30cm×70cmの狭い溝に入り，不自由な作業と，冬の凍った土や上滑りした泥ンコに悩まされ乍ら，342戸の住居址の確認と貴重な出土品を発掘する多大な成果を得ることが出来ました。

昭和28年における第１次調査，昭和52年における第２次調査，昭和53年における立合調査と３回の調査により伊久間原遺跡の全容を調査し，その全貌が明らかになったことは誠に嬉しいことであり，貴重な資料であります。

調査団長佐藤甦信先生及び作業員の方々とご指導下さいました県考古学会会長大沢和夫先生，下伊那地質誌編集委員会会長矢亀勝俊先生のご努力ご協力につきまして心から御礼を申し上げます。

特に出土品の整理，復元，報告書の作成については，熱心親切にご尽力下さいました佐藤団長ご夫妻に衷心から御礼と敬意を捧げるものであります。

出土品については，関係各庁に届出を終り，昭和54年建設した喬木村歴史民俗資料館に保管展示してあります。

伊久間原遺跡全地域の調査完了という大事業の出来ましたことを重ねて御礼申し上げあとがきといたします。

昭和５５年　２月

喬木村教育委員会

# 伊久間原遺跡 II

昭和53年度　伊久間原畑海水工事
埋蔵文化財立合調査報告書

— 1980.2 —

長野県南信土地改良事務所
長野県下伊那郡喬木村教育委員会

印印刷刷　株式会社 秀 文 社